

# 旧学制下栃木県の小学校教員検定制度（二）

——一九〇〇年八月以降——

丸山 剛史

## 一 研究の目的及び方法

本小論は、戦前日本の小学校・国民学校教員（以下、初等教員）検定制度史の府県比較事例研究の一環をなすものである。本小論では、栃木県を対象化した事例研究の第二報として、同県の小学校教員検定制度の展開過程を明らかにすることを目的としている。

筆者は、第一報において、明治初年から一九〇〇（明治三三）年七月以前の時期を対象とし、『文部省年報』（各年度）の「栃木県学事年報」、『栃木県学事年報』（各年度）、『下野私立教育会雑誌』の小学校教員検定制度関係記事を手がかりにして、栃木県の小学校教員検定制度関係規則を収集し、栃木県の小学校教員検定制度の形成過程を明らかにしようとした。検討の結果、栃木県でも、師範学校規則、県学事条例・学力証明法、免許状授与規則、学力検定制験細則を経て、県令により「小学校教員検定等二関スル細則」が制定されていたことが判明した。<sup>②</sup> 栃木県でも、秋田、<sup>③</sup> 静岡、<sup>④</sup> 群馬の各県とほぼ同じように小学校教員検定制度関係規則が整備されていたことが明らかになった。ただし、栃木県では、明治二十年代から高等女学校補習科及び裁縫専修科が師範学校小学校教員講習科と同等の扱いを受け、さらに検定制則にもその旨明記されていたことは、先行研究ではみられない栃木県独自の動向であった。

本小論では、対象とする時期を一九〇〇年八月以降に移し、一九四一

（昭和一六）年の国民学校発足までを対象とし、『栃木県報』（明治三四年以降。後に『栃木県公報』と改称）、『栃木県学事年報』（明治三三―四三年度）、『栃木県統計書』（明治四四―昭和一四年度）等を主たる資料とし、栃木県の小学校教員検定制度関係規則の展開過程を検討する。

分析に際しては、前報と同様に（一）出願・検定手続きの方法、（二）試験の時期・実施回数、試験会場、（三）試験科目、（四）検定の方法、判定基準、（五）手数料の有無及び金額に着目する。

## 二 「小学校令実施規程」制定前

### （一）無試験検定手続き明示及び定期試験検定実施延期

一九〇〇（明治三三）年九月一日、県令第七七号により、無試験検定の出願手続き及び定期試験検定の実施延期が明らかにされた。<sup>⑤</sup> 明記されていないが、この県令は同年八月の小学校令及び小学校令施行規則改正に対応するための措置であると考えられる。

無試験検定に関しては、「小学校教員無試験検定（従前ノ甲種検定）を出願セントスル者ハ本年文部省令第十四号小学校令施行規則ニ依リ追テ何分ノ規程ヲ設クルマテハ明治三十二年栃木県令第十六号小学校教員検定等二関スル細則ノ手續ニ準拠シ出願スヘシ」とされ、新規制定ま

では「小学校教員検定等二関スル細則」に準拠して出願するよう指示された。従来の「細則」では、甲種検定は随時施行とされ、出願者は所定の書式による願書、履歴書、身体検査証を市町村長に提出することとされていた。

試験検定に関しては、「本年第貳回定期小学校教員試験検定（従前ノ乙種検定）ハ前項ノ規程ヲ設ケ其執行期日ヲ定ムルマテ之ヲ延期ス」とされ、新規規定制定まで同検定の実施を延期することとされた。次項で取り上げる県令第八五号「小学校教員検定及免許状二関スル規程」は、県令七七号に基づいて制定された新規規程であると考えられる。

## （二）「小学校教員検定及免許状二関スル規程」制定

一九〇〇（明治三三）年一〇月四日、県令第八五号により、「小学校教員検定及免許状二関スル規程」（以下、「検定及免許状規程」）が制定された。同規程は、試験検定の実施方法を明らかにしている。全一条から成る。<sup>⑥</sup>

出願・検定手続きの方法は、第六条に規定されている。出願者は、所定の書式による願書、履歴書、身体検査書を、市役所または町役場に提出することになっていた。その際、市町村長は奥書・意見書を添えることとされ、市は直に県庁に、町村は郡役所を経由して県庁に提出することとされた。なお、県内公立小学校在勤者に関しては、身体検査書と奥書の提出は不要とされた。

試験検定は毎年春秋両季に各一回、計二回実施することとされた。このほか、必要と認められたときには臨時に実施することも認められていた。試験会場はその都度告示するとされ、特に記されていない。

また、この規程においても指定された学校長もしくは郡市長の申請に

より「直ニ検定ヲ行フ」ことが認められている。

「直ニ」行う検定に関して、従前は「栃木県師範学校第二種小学校教員講習科修了生栃木県高等女学校補習科及裁縫専修科修了生二就キテハ修了試験ヲ以テ検定試験ニ換フルコトアルヘシ」とされ、<sup>⑦</sup>修了試験を検定試験に代替できることが明記されていたが、本規程ではこの検定試験の代替措置に関する記述は削除された。検定試験代替措置に関する記述削除の経緯は不明であり、代替措置が禁止されたか否かは定かでない。試験科目に関しては、出願者が申請しない限り、次の科目は検定を行わないとされた。

小学校本科正教員（以下、小本正）受験の場合

図画、音楽、手工、農業、商業、英語、女子は体操  
小学校准教員（以下、小准）受験の場合

図画、唱歌、女子は体操

尋常小学校本科正教員（以下、尋本正）受験の場合

漢文、図画、音楽、女子は体操、裁縫

尋常小学校准教員（以下、尋准）受験の場合

理科、図画、唱歌、女子は体操

なお、尋本正受験の際、数学は算術に、歴史は日本歴史に限定された。可否の判定基準は明記されていない。

検定手数料は明記されており、本科正教員の場合は五〇銭、准教員又は専科正教員の場合は二五銭とされた。

このほか、同年、栃木県は前年度に引き続き、応急的な教員補充にも取り組み、郡設の教員講習を奨励したとされる。<sup>⑧</sup>また、小学校教員検定に関しては、随時の無試験検定、定期の試験検定だけでなく、八月には「夏期講習会員」に対する「臨時検定ヲ施行」したと記されている。<sup>⑨</sup>

### 三 「小学校令実施規程」制定以後

#### (一) 「小学校令実施規程」制定

一九〇一(明治三四)年三月九日、県令第二七号により、「小学校令実施規程」(以下、「実施規程」)が制定され、小学校教員検定に関する規程も含まれている。<sup>(9)</sup>同規程は、一九〇〇(明治三三)年八月の小学校令及び小学校令施行規則に基づき定められたものとされる。全一章一八三条から成り、内容構成は次の通りである。

##### 「実施規程」

- 第一章 設置及廃止
- 第二章 教科及編制
- 第三章 設備
- 第四章 就学
- 第五章 教員検定
- 第六章 職員
- 第七章 授業料
- 第八章 区長及其ノ代理者、学務委員
- 第九章 代用私立小学校
- 第十章 幼稚園、盲啞学校其ノ他小学校二類スル各種学校
- 第十一章 附則

第五章(第七四条から第八七条)において「教員検定」の実施方法を規定している。

規定内容は、「小学校教員検定及免許状二関スル規程」とほぼ同じであるが、学校長申請による検定の対象者が異なっている。「検定及免許状二関スル規程」では第八条第二項において「本県高等女学校二設置シタル補習科若クハ小学校教員講習科ヲ修了シタル者」が含まれていたが、<sup>(1)</sup>

「実施規程」では削除されていた。

「検定及免許状規程」(傍線、引用者)

第八条 左ノ各号ノ一二該当スル者ニハ当該学校長若クハ郡市長ノ申請ニ依リ直ニ検定ヲ行フ

一、本県師範学校ニ設置シタル小学校教員講習科ヲ修了シタル者

二、本県高等女学校ニ設置シタル補習科若クハ小学校教員講習科ヲ修了シタル者

三、本県知事ノ認可シタル規定ニ依リ郡市長ニ於テ設置シタル小学校教員講習科ヲ修了シタル者

学校教員講習科ヲ修了シタル者

##### 「実施規程」

第八十二条 左ノ各号ノ一二該当スルモノニ限り当該学校長若ハ郡市長ノ申請ニ依リ直ニ検定ヲ行フ

一、本県師範学校ニ設置シタル小学校教員講習科ヲ修了シタルモノ

二、知事ノ認可シタル規定ニ依リ郡市ニ設置シタル小学校教員講習科ヲ修了シタルモノ

このように、「実施規程」制定の際には、高等女学校に関する条項が削除されており、栃木県の小学校教員養成における高等女学校の位置づけが後退したと考えられる。『栃木県学事年報』によれば、一九〇一年度には、師範学校内設置の小学校教員講習科に「女子ヲ入レテ同校ニテ数年、中絶セル女教員養成ノ端緒ヲ更始セリ」とされる。<sup>(12)</sup>前記の高等女学校に関する条項の削除は、師範学校教員講習科における女教員養成

と連動するものであろうか。

その他、『学事年報』は同年度の小学校教員検定に関して、「無試験検定ニ於テ尋常小学校准教員ニシテ多年従事シ成績佳良ナル者八十三名ヲ選ビ特ニ尋常小学校本科正教員免許状ヲ授与シタリ」と記しており、<sup>13</sup>教員経験及び勤務成績を考慮し、八三名もの教員の教員免許状を無試験検定により進させていたことが明らかにされている。

## (二) 「実施規程」追加改正

一九〇三（明治三六）年七月三日、県令第四四号により、「実施規程」の七七条に次の一項が追加された。<sup>14</sup>

「前二条ニ依リ検定ヲ行ハサル試験科目及程度ハ本人ノ希望ニ依リ更ニ検定ヲ受クルコトヲ得」

これにより、検定受験の際に欠くことができる科目でも受験者の申請により科目と程度を指定して受験することが可能となった。

なお、『学事年報』によれば、一九〇二（明治三五）年度には試験検定の出願者が増加し、合格者も増加傾向にあることが記されている。<sup>15</sup>一九〇三年度には尋准不足問題は解消され、「郡設教員講習ヲ開キテ之ヲ養成スルコトハ本年度ヨリ之ヲ廃止セリ」と記され、<sup>16</sup>郡設教員講習による尋准養成は停止された（『学事年報』では「廃止」と記されているが、一九〇八年度に再開された。）。

## (三) 「実施規程」一部改正

一九〇八（明治四一）年一月一日、県令第二号により、「実施規程」が改められた。<sup>17</sup> 提出書類、試験実施回数、試験科目が改められている。

出願書類に関する規定から「医師ノ身体検査書」が削除された。試験検定の実施時期及び回数に関して、実施時期が秋季のみとなり、回数も一回となった。試験科目の欠くことができる科目に関して、小本正の場合、「音楽」と「女子二就キテハ体操」、尋本正の場合、「漢文図画」と「女子二就キテハ体操」、尋准の場合、「理科」と「女子二就キテハ体操」が削除された。

試験検定の実施回数が減り、欠くことのできる科目が少なくなり、試験検定受験のハードルが上がったかたちになっている。

## (四) 試験検定科目省略に関する告示

一九〇八（明治四一）年七月三日、告示第二六七号により、公私立中学校、公私立高等女学校、栃木県立農学校、同工業学校卒業者を対象とした試験検定の試験科目省略の詳細が明らかにされた。<sup>18</sup> 対象者、試験科目は次の通りである。

(一) 公立中学校、認定私立中学校卒業者

小本正 教育、平易ナル漢文

尋本正・小准・尋准 教育

(二) 公立高等女学校卒業者、修業年限五カ年の私立高等女学校に五カ年在学し卒業した者

小本正 教育、平易ナル漢文

尋本正・小准・尋准 教育

(三) 公立高等女学校設置の技芸専修科、同裁縫教員講習科修了者

裁專正 裁縫教授法

(四) 本県立農学校卒業者

小本正 教育、歴史、地理、習字、図画、音楽

尋本正・小准・尋准 教育、歴史、地理、習字、図画  
農専正 農業教授法

(五) 本県立工業学校卒業者

小本正 教育、習字、音楽  
尋本正・小准・尋准 教育、習字  
図専正 図画教授法

『学事年報』によれば、この年、義務教育年限の延長によりにわかに学級数が増加し、これに伴い教員補充を行う必要性が生じ、女子師範学校第二部、男女師範学校に小学校教員講習科を設置するとともに、郡市等に准教員養成講習等を実施させたという。前記の出願書類や試験検定実施回数削減は、こうした栃木県の教員供給策との関係によるものであろうか。

(五) 「実施規程」全部改正

一九一四(大正三)年三月二七日、県令第一八号により、「実施規程」の全部が改正された。<sup>20)</sup> 提出書類、検定手数料等が改められている。

無試験検定の出願者の内、教員検定委員会において試験検定を受験する必要があると判断された者には次期の試験検定受験が義務づけられた。改正前は「受ケシムルコトアルヘシ」とされていたが、改定後は「受ケシム」と文末表現が変わり、強制の度合いが強まっている。

また、試験検定受験に関して、市町村長は「操行」を調査するとともに「調査書」の作成が義務づけられた。

そのほか、検定手数料が増額された。本科正教員は五〇銭増額され一円に、准教員及び専科正教員は二五銭増額され五〇銭となった。

なお、前回の「実施規程」改正から今次改正までの間に、文部省普通

学務局から栃木県宛に通牒が出されており、無試験検定、特に宇都宮市立女子技芸学校卒業者の無試験検定に関して、個人申請により、その都度行うよう指示されている。<sup>21)</sup>

(六) 「小学校教員及幼稚園保母ノ検定並免許状二関スル細則」制定

一九二〇(大正九)年二月二四日、「小学校教員及幼稚園保母ノ検定並免許状二関スル細則」(以下、「細則」)が制定された。<sup>22)</sup> 全四節三五条から成っている。後述のように一九二四(大正一三)年の全部改正の際には県令として発出されるが、このときは県令、告示のいずれでもない。『栃木県報』の「彙報」欄に「学事ノ小学校教員及幼稚園保母ノ検定並免許状二関スル細則左ノ通定メラレタリ」とだけ記され、掲載されていた。

小学校教員及幼稚園保母ノ検定並免許状二関スル細則

第一節 検定委員及検定委員会

第二節 免許状及証明書ノ書式

第三節 試験検定

第一款 試験科目ノ省略

第二款 検定試験受験者ノ心得

第三款 検定試験各科配當時数

第四款 検定試験ノ監督

第五款 試験検定ノ判定基準

第四節 無試験検定

第一款 小学校教員

第二款 幼稚園保母

## 附則

第三節第五款に試験検定の「判定基準」が記されていることに象徴されるように、同細則は、他府県における検定内規に相当するものである。栃木県では他府県における検定内規に相当するものが公報にて公開されていたと考えられる。

ちなみに、試験検定の合否判定基準は「各科目ノ得点四十点以上通約六十点以上ヲ以テ合格トス」とされた。一八九二（明治二五）年の「小学校教員検定等ニ関スル細則」では「本科教員ノ試験ハ各科目ノ評点五十点以上六十点以上ヲ得タル者ヲ合格トス」、ただし一科目に限り五〇点に満たなくとも四〇以上であれば合格とされていた。したがって、この合格基準は、かつてより低くなっている。合格しやすくするための措置であろうか。

## (七) 「細則」全部改正

一九二四（大正一三）年二月二三日、県令第八三号により、「小学校教員及幼稚園保姆検定並免許状ニ関スル細則」が制定された。<sup>23</sup>

同細則は、二〇（大正九）年制定の「細則」の全部改正であるが、変更点はそのほとんどが試験検定の科目の省略及び無試験検定の対象校・対象者に関するものである。とりわけ、無試験検定の対象者が拡大されていることが着目される。<sup>24</sup>

無試験検定対象者に専門学校入学資格検定試験（いわゆる専検）合格者と実業学校卒業者が加えられていることが特徴的である。専正の対象者には「職業学校規程ニ依リ認可ヲ得タル学校」卒業者も含まれている。小准の対象者には「尋常小学校准教員免許状ヲ有シ五箇年以上小学校ノ教育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績佳良ナル者」、尋准の対象者には

「中学校、高等女学校三箇年終了者ニシテ三箇年以上小学校ノ教育ニ従事シ其ノ成績佳良ナルモノ」が加えられた。

同年度の『栃木県統計書』によると、当時、教員不足の状態であったと記され、「師範学校ニ於ケル学級ノ増加ヲ計画シ補充ノ途ヲ講シ」ていたとされる（この教員不足の状態は、一九二六年度まで続く）。無試験検定の拡大等の措置は教員不足との関係によるものであろうか。

## (八) 「細則」一部改正（一回目）

一九二六（大正一五）年一月二日、県令第一号により、「細則」の一部が改正された。<sup>25</sup> 改正点は、いずれも小学校専科正教員の無試験検定に関するものであり、実業学校、高等女学校（実科含む）、職業学校規程に基づく学校の卒業者、特に在学中の成績が佳良ではない者に対して「一箇年以上小学校ノ専科教員ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リ成績佳良ナル者」は無試験検定の対象となることが追加された。

## (九) 「細則」一部改正（二回目）

一九二六（大正一五）年六月三〇日、県令第一一八号により、「細則」の一部が改正された。<sup>26</sup> 小学校教員検定に関しては、専科教員従事経験年数が一年から二年に延長された。教職経験を重視しようとする意図の表れであろうか。

## (一〇) 「実施規程」一部改正

一九二八（昭和三年）三月三〇日、県令第三一号により、「実施規程」の一部が改正された。<sup>27</sup> 改正点は、検定を実施しない科目に関して、であり、検定を実施しない科目が削減された。

小本正 手工、農業、商業、英語      ↓ 商業、英語  
 小 准 図画、音楽、手工、農業、商業      ↓ 農業、商業  
 尋 准 図画、唱歌      ↓ 唱歌

## (二) 「細則」一部改正 (三回目)

一九二九(昭和四)年七月二日、県令第三七号により、「細則」の一部が改正された。<sup>28)</sup> 改正点は、試験検定の試験科目及び無試験検定の対象者に関するものであった。

試験検定の試験科目に関しては、中学校、高等女学校、実業学校卒業者等の受験科目が増加し、法制経済、手工などを中心に科目が追加された。試験検定配當時数にも変化があり、小本正の農業、小准の音楽、手工、尋本正の音楽、小専正の修身、国語、算術の配當時数が追記された。また、無試験検定の対象者が拡大され、小本正及び尋本正の無試験検定対象者に高等学校高等科、大学予科の卒業者等が加えられた。

## (三) 「細則」一部改正 (四回目)

一九三二(昭和七)年八月九日、県令第三七号により、「細則」が一部改正された。<sup>29)</sup> 改正点は試験検定の試験科目に関するものであり、「法制経済」が「公民科」に改められた。

なお、同年度の『栃木県統計書』によると、この頃、試験検定及び無試験検定により、「資格向上」が計画されたとされる。<sup>30)</sup>

「師範学校卒業生ハ全部之ヲ配置スルハ勿論教育講習会ヲ開催シ教育研究ヲ奨励シ試験検定・無試験検定ニ依ル資格向上ノ途ヲ講シ以テ補充ヲ為シ漸次資格者ノ充実ニ向ヒツツアリ」

このように、教育講習会開催に際し、試験検定ないしは無試験検定

の制度を利用し、「資格」を「向上」させていたという。この記述は、一九三三(昭和八)年度の『統計書』にもみられ、検定による「資格向上」措置は継続して実施されたものと考えられる。これが師範教育改善事業の一環をなすものであったか否かは今のところ定かでない。<sup>31)</sup>

## (三) 「細則」一部改正 (五回目)

一九四〇(昭和一五)年六月二八日、県令第四〇号により、「細則」が一部改正された。<sup>32)</sup> 改正点は、試験検定の試験科目に関するものであり、小本正及び尋本正試験検定受験に際し、公民科が免除されることになった。

国民学校期以前の栃木県の小学校教員検定関係規則は、以上の通りである。一九四一(昭和一六)年八月一五日に県令第四六号により、「国民学校教員及幼稚園保姆検定並免許状二関スル細則」が定められると国民学校教員検定に移行していく。

## 四 まとめにかえて

以上のようにみてきて、栃木県の小学校教員検定制度の基本骨格を確認できたように思う。本稿では、次のことを指摘しておきたい。

第一に、栃木県の小学校教員検定制度は、「小学校令実施規程」及び「小学校教員及幼稚園保姆ノ検定並免許状二関スル細則」の二つの規則により構成されていたことである。いずれも県令により定められていた。第二に、他府県では検定内規として非公開であった判定基準が栃木県では「細則」として公表されていたことである。今後、他府県を検討する場合に、同様の事例があるか注意する必要がある。

第三に、一九〇〇(明治三三)年の「実施規程」制定の際に、小学校

教員養成における高等女学校の位置づけが後退していたとみられることである。戦前の小学校教員養成における高等女学校の果たした役割に留意している筆者としては看過できない変化であった。今後、この変化の経緯を可能な限り明らかにしたい。

第四に、宇都宮市立女子技芸学校卒業生に対して無試験検定が行われていたことである。近年の小学校教員検定制度史研究において、特定の学校を指定した教員検定が注目されるようになっており、栃木県の場合も宇都宮市立技芸学校がこれに該当すると考えられる。同校外に同様の学校が存在しなかったか今後検討してみたい。

付記 本研究は、科学研究費補助金（二六三八一〇一一、基盤研究（C）「戦前日本の初等教員養成における初等教員検定の果たした役割に関する府県比較研究」、研究代表者・丸山剛史）の助成を受けたものである。

謝辞 『栃木県令達月集』『栃木県報』『栃木県公報』等の閲覧、写真撮影に際しては栃木県立文書館の職員の皆様に大変お世話になりました。記して深く感謝します。

① 拙稿「旧学制下栃木県の小学校教員検定制（一）——一九〇〇年七月以前——」『宇都宮大学教育学部研究紀要 第一部』第六六号、二〇一六年、一一二〇ページ。

② 釜田史『秋田県小学校教員養成史研究序説——小学校教員検定試験制度を中心に——』（学文社、二〇一二年）、ほか。

③ 拙稿「静岡県の初等教員養成と初等教員検定——研究ノート——

——丸山剛史（研究代表者）『平成二三―二五年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書 戦前日本の初等教員養成における初等教員検定の意義と役割に関する通史的事例研究』、二〇一四年、五五―一〇二ページ

④ 内田徹・丸山剛史「旧学制下群馬県における小学校教員検定制（一）——一九〇〇年九月以前——」『東京福祉大学・大学院紀要』第五卷第二号、二〇一五年、一二三―一三〇ページ。

⑤ 県令第七七号、小学校教員検定等二関スル細則一部改正、『栃木県令達月集 明治三十三年』。

⑥ 県令第八五号「小学校教員検定及免許状二関スル規程」『令達月集 明治三十三年』。

⑦ 「資料 栃木県小学校教員検定制（稿）（一）」『宇都宮大学教育学部研究紀要 第一部』第六六号、二〇一六年、一八ページ。

⑧ 『栃木県学事年報 明治三十三年度』（以下、『学事年報』、二ページ）。

⑨ 『学事年報 明治三十三年度』四ページ。

⑩ 県令第二七号「小学校令実施規程」『栃木県令達月集 明治三十四年』。

⑪ 「資料 栃木県小学校教員検定制（稿）（一）」、前掲、一八ページ。

⑫ 『学事年報 明治三十四年度』、三ページ。

⑬ 『学事年報 明治三十四年度』、一一ページ。

⑭ 県令第四四号、小学校令実施規程一部改正、『栃木県報』第二二三号、一九〇三年。

⑮ 『学事年報 明治三十五年度』、一九ページ。



16 『明治三十六年度栃木県学事年報目録』、三ページ。

17 県令第二号、小学校令実施規程一部改正、『栃木県報』号外、一九〇八年一月一日、二ページ。

18 告示第二六七号「試験検定ノ省略」『栃木県報』第七一八号、一九〇八年、一〇—一二ページ。

19 『学事年報 明治四十一年度』、三ページ。

20 県令第一八号「小学校令実施規程」『栃木県報』第一六四号、一九一四年三月二七日。二一九—二二二ページ。

21 「宇都宮市立女子技芸学校卒業者ニ無試験検定ニ依リ小学校専科正教員免許状授与ハ各箇人ニ就キ其都度申請方」文部大臣官房文書課『文部省例規類纂 第三卷』（復刻版）大空社、一九八七年、八二〇ページ。

22 「小学校教員及幼稚園保姆ノ検定並免許状ニ関スル細則」『栃木県報』第七四七号、一九二〇年二月二四日、一〇五—一一一ページ。

23 県令第八三号「小学校教員及幼稚園保姆ノ検定並免許状ニ関スル細則」『栃木県報』第一二二九号、一九二四年二月二三日、九五—一〇三ページ。

24 一九二〇年代の無試験検定対象者の拡大に関しては、笠間賢二「一九二〇年代半ば以降の小学校教員検定——無試験検定の拡充——」（『宮城教育大学紀要』第四九卷、二〇一五年、二二—二三六ページ）等を参照されたい。

25 県令第一号、細則一部改正、『栃木県報』第一三三三号、一九二六年一月二二日、七ページ。

26 県令第一一八号、細則一部改正、『栃木県報』号外、一九二六年六月三〇日、一—二二ページ。

27 県令第三一号、実施規程一部改正、『栃木県報』第一二六号、

一九二八年三月三〇日、一二七ページ。

28 県令第三七号、細則一部改正、『栃木県報』第二五五号、一九二九年七月二二日、七一—七五ページ。

29 県令第三七号、細則一部改正、『栃木県報』第五六四号、一九三二年八月一九日、七一—七二ページ。

30 栃木県『栃木県統計書 第二編 学事』、一九三四年、四ページ。

31 師範教育改善事業に関しては、伊藤純郎『増浦 郷土教育運動の研究』（思文閣出版、二〇〇八年、五五—六二ページ）笠間賢二「近代日本における『もう一つ』の教員養成——地方教育会における教員養成講習会の研究——」（梶山雅史編『続・近代日本教育会史研究』学術出版会、二〇一〇年、二五—二八二ページ）、丸山、前掲・科研費報告書（二〇一四年、八八—九二ページ）を参照されたい。

32 県令第四〇号、細則一部改正、『栃木県公報』第一三四三号、一九四〇年六月二八日、八五—八六ページ。

# 資料 栃木県小学校教員検定制度史料 (二) (稿)

凡例

- 一、本資料は、小学校教員検定に関する県令等を採録した。
- 一、配列は編年とした。
- 一、資料の記載は、資料番号・標題・本文・出典とした。
- 一、資料の掲載にあたって漢字は旧字体を新字体に改めた。

## 【一】小学校令及び同施行規則改正への移行措置

栃木県令第七十七号

小学校教員無試験検定（従前ノ甲種検定）ヲ出願セントスル者ハ本年文部省令第十四号小学校令施行規則ニ依リ追テ何分ノ規程ヲ設クルマテハ明治三十二年栃木県令第十六号小学校居員検定等ニ関スル細則ノ手続ニ準拠シ出願スヘシ

本年第貳回定期小学校教員試験検定（従前ノ乙種検定）ハ前項ノ規程ヲ設ケ其執行期日ヲ定ムルマテ之ヲ延期ス

明治三十三年九月一日

栃木県知事

溝部惟幾

出典 『栃木県令達月集 明治三十三年』（栃木県立文書館所蔵）

## 【二】小学校教員検定及免許状ニ関スル規程

栃木県令第八十五号

小学校教員検定及免許状ニ関スル規程左ノ通相定ム

明治三十三年十月四日

栃木県知事

溝部惟幾

小学校教員検定及免許状ニ関スル規程

第一条 左ニ掲クル小学校教員検定科目ハ出願者ヨリ申請スルニアラス

レハ検定ヲ行ハス

- 一、小学校本科正教員ノ科目ニ在リテハ図画、音楽、手工、農業、商業、英語、其ノ他女子ニ就テハ体操
- 二、小学校准教員ノ科目ニ在リテハ図画、唱歌、其ノ他女子ニ就キテハ体操

三、尋常小学校本科正教員ノ科目ニ在リテハ漢文、図画、音楽、其ノ他女子ニ就キテハ体操、裁縫

四、尋常小学校准教員ノ科目ニ在リテハ理科、図画、唱歌、其ノ他女子ニ就キテハ体操

第二条 尋常小学校本科正教員ノ検定科目中数学及歴史ハ出願者ヨリ申請スルモノ、外左ノ程度ニ依リ検定ヲ行フ

一、数学ハ算術ニ限ル

二、歴史ハ日本歴史ニ限ル

第三条 試験検定ハ毎年春秋両季ニ於テ各一回之ヲ施行ス但シ必要ト認ムルトキハ臨時施行スルコトアルヘシ

試験検定ノ種別並ニ施行ノ期日場處等ハ其ノ都度之ヲ告示ス但シ第八条ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第四条 試験検定ニハ同時ニ二種以上ノ検定ヲ出願スルコトヲ得ズ但本科ト専科トヲ併セテ出願スルハ此ノ限ニアラス

第五条 試験検定ヲ受ケタル者ニシテ其ノ試験ニ合格セサルモ或ル科目ニ関シ成績佳良ナルトキハ其ノ科目ノ成績ニ関シ証明書ヲ授与ス

第六条 検定ヲ出願スル者ハ別記ノ書式ニ依リ願書第壹号書式ニ履歷書

第貳号書式及医師ノ身体検査書第参号書式ヲ添ヘ市ニ在テハ市役所町

村ニ在テハ町村役場ニ差出スヘシ市町村長ハ前項ノ願書ニ就キ検定出

願者ノ身分年齢及小学校令施行規則第百四条第一号乃至第三号ニ該当

スル事項ノ有無ヲ調査シ不都合ナシト認ムルモノハ之ニ奥書シ意見ア

ルモノハ其ノ意見アルモノハ其ノ意見書ヲ添ヘ市ハ直ニ町村ハ郡役所  
ヲ經テ県庁ニ差出スヘシ

第一項ノ身体検査書及第二項ノ奥書ハ現ニ本県内ニ於テ公立学校ノ正  
教員又ハ准教員ニ在職スル者ニ就キテハ之ヲ要セス

第七条 試験検定ヲ出願スル者第五条若クハ明治二十七年文部省令第九  
号第三項ニ依リ授与シタル試験成績証明書ニシテ現ニ有効ノモノヲ有  
スルトキハ其ノ写ヲ願書ニ添付スヘシ

第八条 左ノ各号ノ一ニ該当スル者ニハ当該学校長若クハ郡市長ノ申請  
ニ依リ直ニ検定ヲ行フ

一、本県師範学校ニ設置シタル小学校教員講習科ヲ修了シタル者

二、本県高等女学校ニ設置シタル補習科若クハ小学校教員講習科ヲ修  
了シタル者

三、本県知事ノ認可シタル規定ニ依リ郡市長ニ於テ設置シタル小学校  
教員講習科ヲ修了シタル者

第九条 検定ヲ出願スル者ハ左ノ検定手数料ヲ納ムヘシ

本科正教員 金五拾銭

准教員又ハ専科正教員 金貳拾五銭

第十条 小学校教員免許状ヲ有スル者其氏名ヲ變更シ又ハ免許状ヲ毀損  
亡失シタルニ由リ其ノ書換若クハ免許状ノ再渡ヲ出願スルトキハ手数  
料トシテ金貳拾銭ヲ納ムヘシ

第十一条 第九条及第十条ノ手数料ハ出願ト同時ニ納付スヘシ

但願書ヲ下戻シ又ハ試験ニ出席セサルモ手数料ハ之ヲ還付セス

第一号書式

(省略 編者)

第二号書式

(省略 編者)

第三号書式

(省略 編者)

出典 『栃木県令達月集 明治三十三年』 (栃木県立文書館所蔵)

### 〔三〕 小学校令実施規程 (教員検定関係のみ)

栃木県令第二十七号

明治三十三年八月勅令第三百四十四号小学校令及明治三十三年八月文部  
省令第十四号小学校令施行規則ニ依リ実施規程左ノ通定ム

明治三十四年三月九日

栃木県知事 溝部惟幾

小学校令実施規程

(中略 編者)

第五章 教員検定

第七十四条 試験検定ハ毎年春秋両季ニ於テ各一回之ヲ施行ス但必要ト

認ムルトキハ臨時施行スルコトアルヘシ

試験検定ノ種別並施行ノ期日、場所等ハ其都度之ヲ告示ス但本規程第

八十二条ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第七十五条 無試験検定ヲ出願スルモノハ隨時ニ試験検定ヲ出願スルモ  
ノハ施行期日十日前ニ願書ヲ差出スヘシ

試験検定ニハ同時ニ二種以上ノ検定ヲ出願スルコトヲ得ス但本科ト専

科トヲ併セテ出願スルハ此ノ限ニアラス

第七十六条 左ニ掲クル試験科目ハ出願者ヨリ申請スルニアラサレハ檢定ヲ行ハス

一、小学校本科正教員ノ科目ニ在リテハ図画、音楽、手工、農業、商業、英語、其ノ他女子ニ就キテハ体操

二、小学校准教員ノ科目ニ在リテハ図画、唱歌、其ノ他女子ニ就キテハ体操

三、尋常小学校本科正教員ノ科目ニ在リテハ漢文、図画、音楽、其ノ他女子ニ就キテハ体操裁縫

四、尋常小学校准教員ノ科目ニ在リテハ理科、図画唱歌、其ノ他女子ニ就キテハ体操

第七十七条 尋常小学校本科正教員ノ試験科目中数学及歴史ハ出願者ヨリ申請スルモノノ外ハ左ノ程度ニヨリテ檢定ス

一、数学ハ算術ニ限ル

二、歴史ハ日本歴史ニ限ル

第七十八条 無試験檢定ノ出願者ニ対シ教員檢定委員会ニ於テ試験檢定ヲ要ストミトメタルトキハ本人ノ志望ニ依リ更ニ出願ヲ要セス次期ノ試験檢定ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第七十九条 試験檢定ヲ受ケタルモノニシテ其ノ試験ニ合格セサルモ其科目ノ試験成績佳良ナルトキハ其ノ科目ニ限り証明書ヲ授与ス

第八十条 檢定ヲ出願スルモノハ別記書式ニ依リ願書（第一号書式）ニ履歷書（第二号書式）及医師ノ身体検査書（第三号書式）ヲ添ヘ市ニ在リテハ市役所、町村ニ在リテハ町村役場ニ差出スヘシ

市町村長ハ前項ノ願書ニ就キ檢定出願者ノ身分、年齢及小学校令施行規則第四百四条第一号乃至第三号ニ該当スル事項ノ有無ヲ調査シ不都合

ナシト認ムルモノハ之ニ與書シ意見アルモノハ其ノ意見書ヲ添ヘ市ハ直ニ町村ハ郡役所ヲ經テ県庁ニ差出スヘシ

第一項ノ身体検査書及第二項ノ與書及意見書ハ現ニ本県内ニ於テ公立学校教員ノ職ニ在ルモノニ限り之ヲ要セス

第八十一条 試験檢定ヲ出願スルモノ本規程第七十九条若ハ明治二十七年文部省令第九号第三項ニ依リ授与シタル試験成績証明書ニシテ現ニ有効ノモノヲ有スルトキハ其ノ写ヲ願書ニ添付スヘシ

本規程第七十六条ノ試験科目及第七十七条ノ程度以上ノ試験檢定ヲ受ケントスルモノハ其ノ旨ヲ願書ニ記載スヘシ

第八十二条 左ノ各号ノ一二該当スルモノニ限り当該学校長若ハ郡市長ノ申請ニ依リ直ニ檢定ヲ行フ

一、本県師範学校ニ設置シタル小学校教員講習科ヲ修了シタルモノ  
二、知事ノ認可シタル規定ニ依リ郡市ニ於テ設置シタル小学校教員講習科ヲ修了シタルモノ

第八十三条 檢定ヲ出願スルモノハ左ノ種別ニ依リ手数料ヲ納ムヘシ

本科正教員 金五十錢

専科正教員

及准 教員 金二十五錢

第八十四条 小学校教員免許狀ヲ有スルモノ其ノ氏名ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタル為免許狀ノ書換又ハ再渡ヲ出願スルトキハ手数料トシテ金二十錢ヲ納ムベシ

第八十五条 前二条ノ手数料ハ出願ト同時ニ納付スヘシ但願書ヲ下戻シ又ハ試験ニ出席セサルモ手数料ハ之ヲ還付セス

第八十六条 檢定ニ合格シタルモノ不正ノ方法ニ依リ檢定ヲ受ケタル事実發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トス

第八十七条 他府県下ニ在リテ本県ノ教員検定ヲ受ケントスルモノハ本章ノ規定ニ准シ願書ニ手数料ヲ添ヘ直接本庁ニ差出スコトヲ得

第一号書式

(省略 編者)

第二号書式

(省略 編者)

出典 『栃木県令達月集 明治三十四年』 (栃木県立文書館所蔵)

#### 【四】明治三十六年小学校令実施規程一部改正(教員検定関係のみ)

栃木県令第四十四号

明治三十四年三月栃木県令第二十七号小学校令実施規程中左ノ通り改正ス

明治三十六年七月三日

栃木県知事 菅井誠美

(省略 編者)

第七十七条ノ次ニ左ノ一条ヲ加フ

第七十七条ノ二前二条ニ依リ検定ヲ行ハサル試験科目及程度ハ本人ノ志望ニ依リ更ニ検定ヲ受クルコトヲ得

(省略 編者)

出典 『栃木県報』第二二三号(明治三十六年七月三日) (栃木県立文書館所蔵)

#### 【五】明治四十一年小学校令実施規程一部改正(教員検定関係のみ)

(のみ)

栃木県令第二号

明治三十四年三月栃木県令第二十七号小学校令実施規程中左ノ通改正ス  
明治四十一年一月十一日

栃木県知事 中山已代蔵

(省略 編者)

第七十四条「春秋両期」ヲ「秋期ニ改メ」「各」ヲ削ル

第七十六条第一号中「音楽」「其ノ他女子ニ就キテハ体操」ヲ削ル「音楽手工農業商業」ヲ加ヘ第三号中「漢文図画」「其ノ他女子ニ就キテハ体操裁縫ヲ」削リ第四号中「理科」「其ノ他女子ニ就キテハ体操」ヲ削ル

第七十七条削除

第七十七条ノ二削除

第八十条第一項中「及医師ノ身体検査書(第三号書式)」ヲ削ル

(省略 編者)

出典 『栃木県報』号外(明治四十一年一月二日) (栃木県立文書館所蔵)

#### 【六】試験検定科目の省略

栃木県告示第二百六十七号

小学校教員試験検定科目省略ノ件左ノ通り定ム  
明治四十一年七月三日

栃木県知事 仲山已代蔵

試験検定ノ省略

一、公立中学校若ハ認定ヲ受ケタル私立中学校ヲ卒業シタル者ニシテ

試験検定ヲ出願スルトキハ左ノ各号ニ依リ試験検定ヲ行フ

(一) 小学校本科正教員ニ就キテハ教育音楽尋常小学校本科正教員小学校准教員尋常小学校准教員ニ就キテハ教育ノ外ハ試験ヲ省ク

(二) 小学校英語専科正教員ニ就キテハ英語教授法ノ外ハ試験ヲ省ク

一、公立高等女学校若ハ修業年限五ヶ年ノ私立高等女学校ニ五ヶ年間在学シテ卒業シタル者ニシテ試験検定ヲ出願スルトキハ左ノ各号ニ依リ試験検定ヲ行フ

(一) 小学校本科正教員ニ就キテハ教育及平易ナル漢文尋常小学校本科正教員小学校准教員尋常小学校准教員ニ就キテハ裁縫教授法ノ外ハ試験ヲ省ク

一、公立高等女学校ニ設置セル技芸専修科若ハ裁縫教員講習科ヲ修了シタル者ニシテ小学校裁縫専科正教員ノ試験検定ヲ出願スルトキハ裁縫教授法ノ外試験ヲ省ク

一、本県立農学校ヲ卒業シタル者ニシテ試験検定ヲ出願スルトキハ左ノ各号ニ依リ試験検定ヲ行フ

(一) 小学校本科正教員ニ就キテハ教育歴史地理習字図画音楽尋常小学校本科正教員小学校准教員尋常小学校准教員ニ就キテハ教育歴史地理習字図画ノ外ニ試験ヲ省ク

(二) 小学校農業専科正教員ニ就キテハ農業教授法ノ外試験ヲ省ク

一、本県立工業学校ヲ卒業シタル者ニシテ試験検定ヲ出願スルトキハ左ノ各号ニ依リ試験検定ヲ行フ

(一) 小学校本科正教員ニ就キテハ教育習字音楽尋常小学校本科正教員小学校准教員尋常小学校准教員ニ就キテハ教育習字ノ外ハ試験ヲ省ク

(二) 小学校図画専科正教員ニ就キテハ図画教授法ノ外試験ヲ省ク

出典 『栃木県報』第七一八号(明治四一年七月三日) (栃木県立文書館所蔵)

## 【七】 小学校令実施規程全部改正 (教員検定関係のみ)

栃木県令第十八号

明治三十四年三月栃木県令第二十七号小学校令実施規程左ノ通改正シ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年三月廿七日

栃木県知事 岡田文次

小学校令実施規程

(省略 編者)

## 第五章 教員検定

第五十二条 試験検定ハ每年秋期ニ於テ一回之ヲ施行ス其ノ種別並施行ノ期日、場所等ハ其ノ都度之ヲ告示ス但シ必要ト認ムルトキハ臨時施行スルコトアルヘシ

試験検定ニハ同時ニ二種以上ノ検定ヲ出願スルコトヲ得ス但シ本科ト専科トヲ併セテ出願スルハ此ノ限りニアラス

無試験検定ハ随時出願スヘシ

第五十三条 左ニ掲クル試験科目ハ検定ヲ行ハス

一、小学校本科正教員ノ科目ニアリテハ手工、農業、商業、英語

二、小学校准教員ノ科目ニアリテハ図画、音楽、手工、農業、商業

三、尋常小学校本科正教員ノ科目ニ在リテハ音楽

四、尋常小学校准教員ノ科目ニアリテハ図画、唱歌

第五十四条 無試験検定ノ出願者ニ対シ教員検定委員会ニ於テ試験検定ヲ要スト認メタルトキハ本人ニヨリ更ニ出願ヲ要セスシテ次期ノ試験検定ヲ受ケシム

第五十五条 試験検定ヲ受ケタルモノニシテ其ノ試験ニ合格セサルモ其科目ノ試験成績佳良ナルトキハ其ノ証明書ヲ授与ス

第五十六条 検定ヲ出願スルモノハ願書（第四号書式）ニ履歴書（第五号書式）ヲ添ヘ市ニアリテハ市役所、町村ニアリテハ町村役場ニ差出スヘシ

市町村長前項ノ願書ヲ受理シタルトキハ出願者ノ身分年齢及小学校令施行規則第一百四条第一号及第三号ニ該当スル事項ノ有無及操行ニ関スル調査書ヲ作製シ願書ト共ニ直ニ町村ハ郡役所ヲ經テ県庁ニ差出スヘシ但シ現ニ本県ニ於テ公立学校教員ノ職ニ在ルモノニ就テハ之ヲ要セス

第五十七条 試験検定ヲ出願スルモノハ第五十五条ノ規定ニ依リ授与シタル試験成績証明書ヲ有スルトキハ其ヲ願書ニ添付スヘシ

第五十八条 左ノ各号ノ一ニ該当スルモノニ限り当該学校長若ハ郡市長ノ申請ニ依リ直ニ検定ヲ行フ

- 一、本県師範学校ニ設置シタル小学校教員講習科ヲ修了シタルモノ
- 一、知事ノ認可シタル規定ニヨリ設置シタル小学校教員講習科ヲ修了シタルモノ

第五十九条 検定ヲ出願スルモノハ左ノ種別ニ依リ手数料ヲ納ムヘシ

本科正教員 金一圓

専科正教員及

准教員 金五拾錢

第六十条 小学校教員免許状ヲ有スルモノ其氏名ヲ変更シ又ハ免許状ヲ毀損亡失シタル為免許状ノ書換又ハ再渡ヲ出願スルトキハ手数料トシテ金貳拾錢ヲ納ムヘシ

前項ノ願書ニハ戸籍抄本ヲ添フルコトヲ要ス

第六十一条 前二条ノ手数料ハ出願ト同時ニ納付スヘシ但納付シタル手数料ハ願書ヲ下戻シ又ハ試験ニ出席セサルモ之ヲ還付セス

第六十二条 不正ノ方法ニ依リ検定ニ合格シタル事実発覚シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トス

第六十三条 他府県在住ノ者ニシテ検定ヲ受ケントスルトキハ本章ノ規定ニ準シ願書ニ手数料ヲ添ヘ直接本県庁ニ差出スヘシ

（省略 編者）

出典 『栃木県報』第一六四号（大正三年三月二七日）（栃木県立文書館所蔵）

## 【八】小学校教員及幼稚園保母ノ検定並免許状ニ関スル細則

### 学 事

小学校教員及幼稚園保母ノ検定並免許状ニ関スル細則左ノ通定メラレタリ

小学校教員及幼稚園保母ノ検定並免許状ニ関スル細則

#### 第一節 検定委員及検定委員会

第一条 常任検定委員及臨時検定委員ハ教育事務ニ従事スル県官吏及師範学校職員中ヨリ之ヲ選任ス但シ時宜ニ依リ本文外ノ官吏又ハ県立学校職員中ヨリ選任スルコトアルヘシ

第二条 検定委員会ハ検定委員会長ニ於テ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開ク

第三条 検定委員会長事故アルトキハ知事ノ指定ニ依リ常任検定委員ノ一人ヲシテ其事務ヲ代理セシム

第四条 検定委員会ノ議事ハ普通ノ會議法ニ依ル但シ委員二分一以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第五條 検定委員長ハ検定試験ノ都度検定委員ノ試験科目分担ヲ定ム  
 検定試験ノ問題及答案ノ評点ハ其ノ担任ノ検定委員ノ発案ニ依リ検定  
 委員会長之ヲ決定ス但シ検定委員長ハ特ニ委員中ニ就キ問題ノ整理  
 及評点ノ査閲ヲ担任セシムルコトアルヘシ

第六條 無試験定ハ会議ニ依ラスシテ回議ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

## 第二節 免許状及証明書ノ書式

第七條 教員免許状ノ書式左ノ如シ

(書式 省略)

第八條 保姆免許状ノ書式左ノ如シ

(書式 省略)

第九條 小学校令施行規則第百十四條及第二百四條ノ二ニ依リ授与スル  
 検定試験成績証明書ノ書式左ノ如シ

(書式 省略)

## 第三節 試験検定

### 第一款 試験科目ノ省略

第十條 官公立中学校卒業業者又ハ公立私立認定ニ関スル規則ニ依リ認定  
 セラレタル私立中学校卒業業者ニシテ試験検定ヲ出願スルトキハ左ノ科  
 目ニ就テノミ試験ヲ行フ

一、小学校本科正教員ニ就テハ教育及音楽

二、尋常小学校本科正教員及小学校准教員ニ就テハ教育

三、小学校英語専科正教員ニ就テハ教育ノ大意及教授法

第十一條 高等女学校本科卒業業者ニシテ試験検定ヲ出願スルトキハ左ノ  
 科目ニ就テノミ試験ヲ行フ

一、小学校本科正教員ニ就テハ教育及漢文

二、尋常小学校本科正教員、小学校准教員及保姆ニ就テハ教育

第十二條 実科高等女学校(修業年限四ヶ年以上)卒業業者ニシテ試験検  
 定ヲ出願スルトキハ左ノ科目ニ就テノミ試験ヲ行フ

一、小学校本科正教員ニ就テハ教育、漢文、歴史、地理、博物、物理  
 及化学並音楽

二、尋常小学校本科正教員小学校准教員及保姆ニ就テハ教育、歴史、  
 地理及理科

三、尋常小学校准教員ニ就テハ教育

第十三條 甲種程度ノ農学校卒業業者ニシテ試験検定ヲ出願スルトキハ左  
 ノ科目ニ就テノミ試験ヲ行フ

一、小学校本科正教員ニ就テハ教育、歴史、地理、習字、音楽及図画

二、尋常小学校本科正教員ニ就テハ教育、歴史、地理及図画

三、小学校准教員及尋常小学校准教員ニ就テハ教育、歴史及地理

四、小学校農業専科正教員ニ就テハ教育ノ大意及教授法

第十四條 甲種程度ノ工業学校卒業業者ニシテ試験検定ヲ出願スルトキハ  
 左ノ科目ニ就テノミ試験ヲ行フ

一、小学校本科正教員ニ就テハ教育、博物、習字及音楽

二、尋常小学校本科正教員、小学校准教員及尋常小学校准教員ニ就テ  
 ハ教育

三、小学校図画専科正教員ニ就テハ教育ノ大意及教授法

第十五條 甲種程度ノ商業学校卒業業者ニシテ試験検定ヲ出願スルトキハ  
 左ノ科目ニ就テノミ試験ヲ行フ

一、小学校本科正教員ニ就テハ教育、博物、音楽、物理及化学並図画

二、尋常小学校本科正教員、小学校准教員ニ就テハ教育及理科

三、小学校商業専科正教員ニ就テハ教育ノ大意及教授法

## 第二款 検定試験受験者心得



第十六条 検定試験受験者心得トシテ大凡左ノ事項ヲ告示スルコトヲ要ス

一、検定試験ノ種類

二、検定試験ノ場所

三、試験検定ノ願書提出ノ期日並検定試験施行ノ期日及時間割表

四、検定試験ノ用紙及用具ニ関スル事

五、其ノ他必要ナル事項

第十七条 受験者ハ特ニ左ノ事項ヲ心得フヘシ

一、検定委員会長及検定委員ノ指揮命令ニ従フコト

二、不都合ノ行為アリト認メタル者ハ其ノ情状ニ依リ既ニ差出シタル

答書ヲ無効トシ退場ヲ命シ又ハ其ノ期ノ検定試験ヲ停止スルコト

アルヘキコト

三、検定試験定時前ニ出頭スルコト若シ其ノ時限ニ後レテ出頭シタル

トキハ検定試験場ニ入ルコトヲ許ササルコトアルヘキコト

四、服装ハ和服ノトキハ袴ヲ著クルコト但シ女子ハ此ノ限ニ在ラス

五、初日ニ検定試験場備付ノ宿所簿ニ各自ノ宿所ヲ記入スルコト

六、左記物品ノ外白紙タリト雖携帯シテ検定試験場ニ入ルコトヲ許サ

サルコト

鉛筆、小刀、筆、硯、墨、図引具、算盤及裁縫用品

七、検定試験場ニ在リテハ豫テ指示シタル番号ニ依リテ著席シ受験者

互ニ言語ヲ交ヘ又ハ監督者ノ承認ヲ得スシテ離籍スヘカラサルコ

ト

八、試験問題ニ関シテハ一切質問ヲ許ササルコト

九、答書ハ文字ヲ明瞭ニ記載シ必ス受験者番号ヲ記シ自己ノ姓名ヲ記

スヘカラサルコト

十、一問ノ答書ニ葉以上ニ亘ルトキハ一葉毎ニ必ス番号ヲ記載シ且毎葉順序ノ符号ヲ記シテ之ヲ綴ルコト若シ答書ニ番号記載ナキトキハ無効タルコト

十一、試験問題ニ就キ答ヲ為スコト能ハサル場合ニハ其ノ問題ノ番号

不能ノ二字及受験者番号ヲ記載シテ差出スコト

十二、一度答書ヲ差出シタル上ハ例令誤謬アルコトヲ発見スルモ訂正

スルコトヲ許サ、ルコト

一旦退場シタルトキハ其ノ試験時間中再ヒ入場スルコトヲ許サ、ルコ

ト

十三、規定ノ時限ニ至リタルトキハ直ニ答書ヲ差出スコト

第三款 検定試験各科配當時数

第十八条 試験検定各科配當時数左ノ如シ

一、小学校本科正教員

修身		歴史		博物		家事		図画		体操	
筆答	二	筆答	二	筆答	四	筆答	一	筆答	二	筆答	一
実地		実地		実地		実地		実地		実地	
不定		不定		不定		不定		不定		不定	
教育		授業		地理		物理及		化学		裁縫	
筆答	四	筆答	不定	筆答	二	筆答	三	筆答	不定	筆答	一
実地		実地		実地		実地		実地		実地	
不定		不定		不定		不定		不定		不定	
国語及		漢文		算術幾何		簿記珠算		法制及		経済	
講読文法	三	作文	二	算術幾何	五	簿記珠算	一	法制及	二	経済	一
漢文		漢文		算術幾何		簿記珠算		法制及		経済	
不定		不定		算術幾何		簿記珠算		法制及		経済	
音楽		実地		不定		不定		不定		不定	
筆答	一	筆答	一	筆答	一	筆答	一	筆答	一	筆答	一
実地		実地		実地		実地		実地		実地	
不定		不定		不定		不定		不定		不定	

二 小学校准教員及保母

修身	二	地理	二
歴史	二	裁縫	一
理科	三	筆算	二
体操	不定	実地	一
教育	二	国語	二
		作文	二
		講読	二
		習字	一
		算術	二
		珠算	一
		図画	二

三 尋常小学校本科正教員

修身	二	教育	三
歴史	二	地理	二
理科	三	裁縫	一
体操	一	筆算	二
	不定	実地	二
	不定	算術	一
	不定	珠算	二
	不定	図画	二
		国語	二
		作文	二
		講読	二
		習字	一
		算術	二
		珠算	一

四 尋常小学校准教員

修身	二	教育	二
地理	二	算術	二
理科	二	筆算	一
		珠算	二
		国語	二
		作文	二
		講読	二
		習字	一
		算術	二
		珠算	一
		図画	二

五 小学校専科正教員

教育大意	一	学科	三時間以内
		筆算	不定
		実地	不定

第四款 検定試験ノ監督

第十九条 検定委員会長ハ検定試験ノ都度検定試験監督ノ分担及日割ヲ定メ各委員ニ之ヲ通知ス検定試験監督ノ委員事故アルトキハ便宜他ノ委員ニ代理ヲ依嘱スルコトヲ得

第二十条 検定試験問題ハ検定委員会長ヨリ検定試験監督ノ委員ニ之ヲ交付シ検定試験監督ノ委員検定試験場ニ於テ試験開始ノ際之ヲ開封スルモノトス但シ予メ準備ヲ要スルモノハ此限ニ在ラス

第二十一条 検定試験監督ノ委員ト雖検定試験問題ニ関シ説明ヲ加ヘ又ハ時間ノ変更ヲ為スコトヲ得ス

第二十二条 検定試験監督ノ委員ハ検定試験場ノ準備ヲ為シ一種ノ試験毎ニ受験者ノ出席及欠席ヲ調査シ且検定試験場ニ於ケル一切ノ取締ヲ為スヘシ

第二十三条 検定試験監督ノ委員ハ検定試験場ノ於テ成績物ヲ番号順ニ取纏メ其ノ表紙ニ検定科目検定試験場及受験人員ヲ記シ之ニ問題ヲ添付シ且ツ封緘ヲ施シテ受験者ノ出席表及処分報告書ト共ニ遅滞ナク之ヲ会長ニ差出スヘシ

第五款 試験検定ノ判定標準

第二十四条 各科目ノ試験点数ハ百点ヲ以テ定点点トス但シ科目ノ種類ニ依リ一科目ヲ数小科目ニ分割シテ之ヲ採点ス

第二十五条 教育科中ノ実地授業、博物実験並物理及化学ノ実験ハ其ノ定点点各百点トシ筆算ノ得点ト合セテ之ヲ二分ス

第二十六条 各科目ノ得点四十点以上通約六十点以上ノ者ヲ以テ合格トス

但シ専科又ハ二科目以内ノ受験者ニ在リテハ各科目ノ得点六十点以上ヲ以テ合格トス

各科目ノ得点ハ其ノ定点ノ十分ノ二以上タルコトヲ要ス

## 第二十七条 各科目ノ分科及其ノ定点ハ別ニ之ヲ定ム

### 第四節 無試験検定

#### 第一款 小学校教員

第二十八条 左記各号ノ一二該当スル者ハ無試験検定ニ依リ小学校本科正教員タルコトヲ認定ス

一、中学校又ハ高等女学校本科ヲ卒業シ尋常小学校本科正教員又ハ小学校准教員免許状ヲ有スル者ニシテ四年以上小学校ノ教育ニ従事シ且ツ其成績佳良ナル者

二、尋常小学校本科正教員ノ免許状ヲ有シ五箇年以上小学校ノ教育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在ル者ニシテ小学校令施行規則第百八条ノ学科目ニ就テ相当学力ヲ有シ特ニ理科及数学ニ関シテ補習ノ経歴有リ成績佳良ナル者但シ男子ニ在リテハ三十歳以上女子ニ在リテハ二十五歳以上タルコトヲ要ス

三、師範学校中学校又ハ高等女学校ノ教員免許状ヲ有シ其ノ経歴小学校本科正教員ノ担任スヘキ学科ヲ教授スルニ足ル学力アリト認め得ル者

第二十九条 左記各号ノ一二該当スル者ハ無試験検定ニ依リ尋常小学校本科正教員タルコトヲ認定ス

一、中学校又ハ高等女学校ヲ卒業シタル者ニシテ二箇年以上小学校ノ教育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績佳良ナル者

二、高等女学校補習科卒業者ニシテ一ヶ年以上小学校ノ教育ニ従事シ在学中教育学及教授法ヲ履修シ且ツ在学中ノ成績佳良ナル者

三、小学校准教員又ハ尋常小学校准教員ノ免許状ヲ有シ五ヶ年以上小学校ノ教育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リ小学校令施行規則第百十一

条ノ学科目ニ就テ相当ノ学力ヲ有シ特ニ理科及算術ニ関シテ補習ノ経歴有リ成績佳良ナル者但シ男子ニ在リテハ三十歳以上女子ニ在リテハ二十五歳以上タルコトヲ要ス

四、師範学校、中学校又ハ高等女学校ノ教員免許状ヲ有シ小学校令施行規則第百十一条ノ学科目ニ就テ相当ノ学力ヲ有シ特ニ理科及算術ニ関シテ補習ノ経歴有リ成績佳良ナル者

第三十条 左記各号ノ一二該当スル場合ハ無試験検定ニ依リ小学校専科正教員タルコトヲ認定ス

一、文部省直轄ノ中等学校ニ於テ小学校令施行規則第百十条ノ学科目中一科目又ハ数科目ヲ履修シタル者其ノ履修科目ニ就テ

二、日本体育会体操学校ノ本科又ハ別科ヲ卒業シタル者体操科ニ就テ三、中学校又ハ甲種程度ノ商業学校卒業者ニシテ在学中外国語ノ成績佳良ナル者其ノ外国語科ニ就テ

四、甲種程度ノ実業学校卒業者ニシテ在学中ノ成績佳良ナル者其ノ卒業シタル学科目ニ就テ

五、高等女学校ノ補習科若ハ実科（元技芸専修科ヲ含ム）又ハ実科高等女学校ヲ卒業シタル者ニシテ在学中ノ成績佳良ナル者裁縫科ニ就テ

六、高等小学校卒業者又ハ之ト同等以上ノ学力ヲ有スル者ニシテ五箇年以上小学校ノ専科教授ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リ成績佳良ナル者

但シ男子ニ在リテハ三十歳以上女子ニ在リテハ二十五歳以上タルコトヲ要ス

七、高等小学校卒業者又ハ之ト同等以上ノ学力ヲ有スル者ニシテ小学校令施行規則第百十条ノ学科目中一科目又ハ数科目ニ関シ師範学

校本科第一部ト同等以上ノ程度ニ於テ教授スル学校ヲ卒業シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績佳良ナル者其ノ学科目ニ就テ

第三十一条 左記各号ノ一二該当スル者ハ無試験検定ニ依リ小学校准教員タルコトヲ認定ス

一、中学校、高等女学校ヲ卒業シタル者ニシテ在学中ノ成績佳良ナル者ハ六ヶ月以上小学校ノ教育ニ従事シ其ノ成績佳良ナル者

二、高等女学校補習科卒業者ニシテ在学中教育及教授法ヲ履修シタル者

三、甲種程度ノ実業学校又ハ実科高等女学校（修業年限四ヶ年以上）ヲ卒業シタル者ニシテ一ヶ年以上小学校ノ教育ニ従事シ其ノ成績佳良ナル者

第三十二条 左記各号ノ一二該当スル者ハ無試験検定ニ依リ尋常小学校准教員タルコトヲ認定ス

一、中学校、高等女学校、甲種程度ノ実業学校又ハ実科高等女学校（修業年限四ヶ年以上）ヲ卒業シタル者

二、乙種実業学校又ハ修業年限三ヶ年以下ノ実科高等女学校ヲ卒業シタル者ニシテ一ヶ年以上小学校ノ教育ニ従事シ其ノ成績佳良ナル者

三、高等小学校卒業者又ハ之ト同等以上ノ学力ヲ有シ五ヶ年以上小学校ノ教育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績佳良ナル者

## 第二款 幼稚園保姆

第三十三条 左記各号ノ一二該当スル者ハ無試験検定ニ依リ幼稚園保姆タルコトヲ認定ス

一、女子ニシテ本細則第二十八条第二十九条及第三十一条ニ該当スル者

二、高等小学校卒業ノ女子ニシテ二ヶ年以上幼稚園ニ在リテ幼児ノ保育ニ従事シ其ノ成績佳良ナル者

## 附 則

第三十四条 前各条ニ該当セスト雖検定委員会ニ於テ特ニ適當ト認メタル者ニハ相当免許状ヲ授与スルコトアルヘシ

第三十五条 本細則ハ大正九年一月三十一日ヨリ之ヲ施行ス

出典 『栃木県報』第七四七号（大正九年二月二四日）（栃木県立文書館所蔵）

## 【九】小学校教員及幼稚園保姆検定並免許状ニ関スル細則（県令）

栃木県令第八十三号

小学校教員及幼稚園保姆検定並免許状ニ関スル細則左ノ通定ム

大正十三年十二月二十三日 栃木県知事 大塚惟精

小学校教員及幼稚園保姆検定並免許状ニ関スル細則

### 第一節 検定委員及検定委員会

第一条 常任検定委員及臨時検定委員ハ教育事務ニ従事スル県官吏及師範学校職員中ヨリ之ヲ選任ス但シ時宜ニ依リ本文外ノ官吏又ハ県立学校職員中ヨリ選任スルコトアルヘシ

第二条 検定委員会ハ検定委員長ニ於テ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開ク

第三条 検定委員長長事故アルトキハ知事ノ指定ニ依リ常任検定委員ノ一人ヲシテ其事務ヲ代理セシム

第四条 検定委員会ノ議事ハ普通ノ会議法ニ依ル但シ委員二分一以上出席スルニ非サレバ會議ヲ開クコトヲ得ス

第五条 検定委員長ハ検定試験ノ都度検定委員ノ試験科目分担ヲ定ム

検定試験ノ問題及答案ノ評点ハ其ノ担任ノ検定委員ノ発案ニ依リ検定委員会長之ヲ決定ス但シ検定委員長ハ特ニ委員中ニ就キ問題ノ整理及評点ノ査閲ヲ担任セシムルコトアルヘシ

第六条 無試験定ハ会議ニ依ラスシテ回議ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

## 第二節 免許状及証明書

第七条 小学校教員並保母免許状及小学校令施行規則第一百四条同第二百四条ノ二ニヨリ授与スル検定試験成績証明書ハ第一号乃至第五号ノ書式ニ依ル

## 第三節 試験検定

### 第一款 試験科目ノ省略

第八条 中学校卒業業者及専門学校入学資格検定試験合格者ニシテ試験検定ヲ出願スルトキハ左ノ科目ニ就テノミ試験ヲ行フ

一、小学校本科正教員ニ就テハ教育及音楽

二、尋常小学校本科正教員及小学校准教員ニ就テハ教育

三、小学校英語専科正教員ニ就テハ教育ノ大意及教授法

第九条 高等女学校本科卒業業者及専門学校入学資格検定試験合格者ニシテ試験検定ヲ出願スルトキハ左ノ科目ニ就テノミ試験ヲ行フ

一、小学校本科正教員ニ就テハ教育及漢文

二、尋常小学校本科正教員、小学校准教員及保母ニ就テハ教育

第十条 実科高等女学校（修業年限四箇年以上）卒業者ニシテ試験検定ヲ出願スルトキハ左ノ試験ヲ行フ

一、小学校本科正教員ニ就テハ教育、漢文、歴史、地理、博物、物理及化学、音楽

二、尋常小学校本科正教員、小学校准教員及保母ニ就テハ教育、歴史、

## 地理及理科

三、尋常小学校准教員ニ就テハ教育

第十一条 尋常小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限五箇年高等小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限三箇年以上ノ農学校卒業者ニシテ試験検定ヲ出願スルトキハ左ノ科目ニ就テノミ試験ヲ行フ

一、小学校本科正教員ニ就テハ教育、歴史、地理、習字、音楽及図画

二、尋常小学校本科正教員ニ就テハ教育、歴史、地理及図画

三、小学校准教員及尋常小学校准教員ニ就テハ教育、歴史及地理

四、小学校農業専科正教員ニ就テハ教育ノ大意及教授法

第十二条 尋常小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限五箇年高等小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限三箇年以上ノ工業学校卒業業者ニシテ試験検定ヲ出願スルトキハ左ノ科目ニ就テノミ試験ヲ行フ

一、小学校本科正教員ニ就テハ教育、博物、習字及音楽

二、尋常小学校本科正教員、小学校准教員及尋常小学校准教員ニ就テハ教育

三、小学校図画専科正教員ニ就テハ教育ノ大意及教授法

第十三条 尋常小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限五箇年高等小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限三箇年以上ノ商業学校卒業業者ニシテ試験検定ヲ出願スルトキハ左ノ科目ニ就テノミ試験ヲ行フ

一、小学校本科正教員ニ就テハ教育、博物、音楽、物理及化学並図画

二、尋常小学校本科正教員、小学校准教員ニ就テハ教育及理科

三、小学校商業専科正教員ニ就テハ教育ノ大意及教授法

第二款 検定試験受験者心得

第十四条 検定試験受験者心得トシテ凡ソ左ノ事項ヲ告示スルコトヲ要ス

一、検定試験ノ種類

二、検定試験ノ場所

三、試験検定ノ願書提出ノ期日並検定試験施行ノ期日及時間割表

四、検定試験ノ用紙及用具ニ関スル事

五、其他必要ナル事項

第十五条 受験者ハ特ニ左ノ事項ヲ心得ヘシ

一、検定委員会長及検定委員ノ指揮命令ニ従フコト

二、不都合ノ行為アリト認メタル者ハ其ノ情状ニ依リ既ニ差出シタル

答書ヲ無効トシ退場ヲ命シ又ハ其ノ期ノ検定試験ヲ停止スルコト

アルヘキコト

三、検定試験定時前ニ出頭スルコト若シ其ノ時限ニ後シテ出頭シタル

トキハ検定試験場ニ入ルコトヲ許ササルコトアルヘキコト

四、服装ハ和服ノトキハ袴ヲ著クルコト但シ女子ハ此ノ限ニ在ラス

五、左記物品ノ外白紙タリト雖携帯シテ検定試験場ニ入ルコトヲ許サ

サルコト

鉛筆、小刀、筆、硯、墨、図引具、算盤及裁縫用品

六、検定試験場ニアリテハ豫テ指示シタル番号ニ依リテ著席シ受験者

互ニ言語ヲ交ヘ又ハ監督者ノ承認ヲ得スシテ離籍スヘカラサルコ

ト

七、試験問題ニ関シテハ一切質問ヲ許ササルコト

八、答書ハ文字ヲ明瞭ニ記載シ必ス受験者番号ヲ記シ自己ノ姓名ヲ記

スヘカラサルコト

九、一問ノ答書ニ葉以上ニ亘ルトキハ一葉毎ニ必ス番号ヲ記載シ且毎

葉順序ノ符号ヲ記シテ之ヲ綴ルコト若シ答書ニ番号記載ナキトキ

ハ無効タルコト

十、試験問題ニ就キ答ヲ為スコト能ハサル場合ニハ其ノ問題ノ番号不

能ノ二字及受験者番号ヲ記載シテ差出スコト

十一、一度答書ヲ差出シタル上ハ例令誤謬アルコトヲ発見スルモ訂正

スルコトヲ許ササルコト

十二、一旦退場シタルトキハ其ノ試験時間中再ヒ入場スルコトヲ許サ

サルコト

十三、規定ノ時限ニ至リタルトキハ直ニ答書ヲ差出スコト

第三款 検定試験各科配當時数

第十六条 試験検定各科配當時数左ノ如シ

一、小学校本科正教員

修身	二	教育(筆答)	四
歴史	二	地理	二
博物	筆答 四 実験 不定	物理及 化学 筆答 三 実験 不定	数学 算術幾何 代数 簿記珠算 一
家事	筆答 一 実験 不定	裁縫 筆答 一 実験 不定	習字 一
図画	自在画 二 用器画 二	手工 筆答 一 実験 不定	音楽 筆答 一 実験 不定
体操	筆答 一 実地 不定	国語 講読 三 作文 二 漢文 二	実地授業 不定

## 二 小学校准教員及保母

修身	二	地理	二
歴史	二	裁縫	一
理科	三	筆算	二
体操	不定	実地	不定
教育	二	国語	二
		講読	二
		作文	二
		習字	二
		算術	二
		珠算	一
		筆算	二

## 三 尋常小学校本科正教員

修身	二	教育	三
歴史	二	地理	二
理科	三	裁縫	一
体操	一	筆算	二
実地	不定	実地	不定
		算術	二
		珠算	一
		筆算	二
		国語	二
		講読	二
		作文	二
		習字	二
		算術	二
		珠算	一
		筆算	二

## 四 尋常小学校准教員

修身	二	教育	二
地理	二	算術	二
理科	二	珠算	一
		筆算	二
		国語	二
		講読	二
		作文	二
		習字	二
		算術	二
		珠算	一
		筆算	二

## 五 小学校専科正教員

教育大意	一	筆算	三時間以内
学科	実地	不定	

## 第四款 検定試験ノ監督

第十七条 検定委員会長ハ検定試験ノ都度検定試験監督ノ分担及日割ヲ定メ各委員ニ之ヲ通知ス検定試験監督ノ委員事故アルトキハ便宜他ノ委員ニ代理ヲ依嘱スルコトヲ得

第十八条 検定試験問題ハ検定委員会長ヨリ検定試験監督ノ委員ニ之ヲ交付シ検定試験監督ノ委員検定試験場ニ於テ試験開始ノ際之ヲ開封スルモノトス

但シ予メ準備ヲ要スルモノハ此限ニ在ラス

第十九条 検定試験監督ノ委員ト雖検定試験問題ニ関シ説明ヲ加ヘ又ハ時間ノ変更ヲ為スコトヲ得ス

第二十条 検定試験監督ノ委員ハ検定試験場ノ準備ヲ為シ一種ノ試験毎ニ受験者ノ出席及欠席ヲ調査シ且検定試験ニ於ケル一切ノ取締ヲ為スヘシ

第二十一条 検定試験監督ノ委員ハ検定試験場ノ於テ成績物ヲ番号順ニ取纏メ其ノ表紙ニ検定科目、検定試験場及受験人員ヲ記シ之ニ問題ヲ添付シ且ツ封緘ヲ施シテ受験者ノ出席表及処分報告書ト共ニ遲滞ナク之ヲ会長ニ差出スヘシ

## 第五款 試験検定ノ判定標準

第二十二条 各科目ノ試験点数ハ百点ヲ以テ定点点トス但シ科目ノ種類ニ依リ一科目ヲ数小科目ニ分割シテ之ヲ採点ス

第二十三条 博物実験並ニ物理及化学ノ実験ハ其ノ定点点ヲ百点トシ筆算ノ得点ト合セテ之ヲ二分ス

第二十四条 実地授業ハ各科目ノ得点四十点以上ノ者ニ対シテ之ヲ行ヒ其ノ定点点ヲ百点トス

第二十五条 各科目ノ得点四十点以上通約六十点以上ノ者ヲ以テ合格ト

ス

但シ専科又ハ二科目以内ノ受験者ニ在リテハ各科目ノ得点六十点以上ヲ以テ合格トス

各科目ノ得点ハ其ノ定点ノ十分ノ二以上タルコトヲ要ス

第二十六条 各科目ノ分科及其ノ定点ハ別ニ之ヲ定ム

#### 第四節 無試験検定

##### 第一款 小学校教員

第二十七条 左記各号ノ一二該当スル者ハ無試験検定ニ依リ小学校本科正教員タルコトヲ認定ス

一、中学校、高等女学校ノ卒業者、専門学校入学資格検定試験合格者及尋常小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限五箇年、高等小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限三箇年以上ノ実業学校ノ卒業者ニシテ尋常小学校本科正教員又ハ小学校准教員免許状ヲ有シタル後三箇年以上小学校ノ教育ニ従事シ且ツ其成績佳良ナルモノ

二、尋常小学校本科正教員又ハ小学校准教員ノ免許状ヲ有シ五箇年以上小学校ノ教育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在ルモノニシテ小学校令施行規則第百八条ノ学科目ニ就テ相当学力ヲ有シ特ニ理科及数学ニ関シテ補習ノ経歴アリテ成績佳良ナルモノ

三、師範学校、中学校、高等女学校又ハ実業学校教員免許状ヲ有シ其ノ経歴小学校本科正教員ノ担任スヘキ学科ヲ教授スルニ足ル学力アリト認め得ル者

第二十八条 左記各号ノ一二該当スル者ハ無試験検定ニ依リ尋常小学校本科正教員タルコトヲ認定ス

一、中学校、高等女学校ノ卒業者、専門学校入学資格検定試験合格者

及尋常小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限五箇年高等小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限三箇年以上ノ実業学校又ハ実科高等女学校（修業年限四ヶ年以上）ヲ卒業シタルモノニシテ二箇年以上小学校ノ教育ニ従事シ現ニ在リテ成績佳良ナルモノ

二、高等女学校補修科卒業者ニシテ一箇年以上小学校ノ教育ニ従事シ在学中教育学及教授法ヲ履修シ且ツ在学中ノ成績佳良ナルモノ

三、小学校准教員又ハ尋常小学校准教員免許状ヲ有シ五箇年以上小学校ノ教育ニ従事シ現ニ其ノ職ニアリ小学校令施行規則第百一条ノ学科目ニ就テ相当ノ学力ヲ有シ特ニ理科及算術ニ関シテ補習ノ経歴アリ成績佳良ナルモノ

第二十九条 左記各号ノ一二該当スル者ハ無試験検定ニ依リ小学校専科正教員タルコトヲ認定ス

一、文部省直轄ノ中等学校ニ於テ小学校令施行規則第百十條ノ学科目中一科目又ハ数科目ヲ履修シタル者其ノ履修科目ニ就テ

二、日本体育会体操学校ノ本科又ハ別科ヲ卒業シタルモノ体操科ニ就テ

三、中学校又ハ尋常小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限五箇年ノ商業学校卒業者ニシテ在学中外国語ノ成績佳良ナル者其ノ外国語科ニ就テ

四、尋常小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限五箇年、高等小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限三箇年以上ノ実業学校卒業者ニシテ在学中ノ成績佳良ナル者其ノ卒業シタル学科目ニ就テ

五、高等女学校ノ補習科若ハ実科（元技芸専修科ヲ含ム）又ハ実科高



等女学校ヲ卒業シタル者ニシテ在学中ノ成績佳良ナル者裁縫科ニ就テ

六、職業学校規程ニ依リ認可ヲ得タル学校ヲ卒業シタル者ニシテ現ニ小学校ノ専科教授ニ従事シ其ノ成績佳良ナル者

七、高等小学校卒業者又ハ之ヲ同等以上ノ学力ヲ有スル者ニシテ五箇年以上小学校ノ専科教授ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リ成績佳良ナル者

八、高等小学校卒業者又ハ之ト同等以上ノ学力ヲ有スルモノニシテ音楽、体操、裁縫、手工、農業、商業、家事、裁縫、外国語ノ一科若ハ数科目ニ関シ師範学校本科第一部ノ学科程度ト同等以上ノ程度ニ於テ之ヲ教授スル学校ヲ卒業シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績佳良ナルモノ其ノ学科目ニ就テ

第三十条 左記各号ノ一二該当スル者ハ無試験検定ニ依リ小学校准教員タルコトヲ認定ス

一、中学校、高等女学校ノ卒業者及専門学校入学資格検定試験合格者ニシテ六箇月以上小学校ノ教育ニ従事シ其ノ成績佳良ナル者

二、高等女学校補習科卒業者ニシテ在学中教育及教授法ヲ履修シ其ノ成績佳良ナル者

三、尋常小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限五箇年、高等小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限三箇年以上ノ実業学校又ハ実科高等女学校（修業年限四箇年以上）ヲ卒業シタル者ニシテ一箇年以上小学校ノ教育ニ従事シ其ノ成績佳良ナルモノ

四、尋常小学校准教員免許状ヲ有シ五箇年以上小学校ノ教育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績佳良ナル者

第三十一条 左記各号ノ一二該当スル者ハ無試験検定ニ依リ尋常小学校

准教員タルコトヲ認定ス

一、中学校、高等女学校ノ卒業者、専門学校入学資格検定試験合格者及尋常小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限五箇年、高等小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限三箇年以上ノ実業学校又ハ実科高等女学校（修業年限四箇年以上）ヲ卒業シタル者

二、尋常小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限三箇年以下ノ実業学校又ハ修業年限三箇年以下ノ実科高等女学校ヲ卒業シタルモノニシテ一箇年以上小学校ノ教育ニ従事シ其ノ成績佳良ナル者  
三、中学校、高等女学校三箇年終了者ニシテ三箇年以上小学校ノ教育ニ従事シ其ノ成績佳良ナルモノ

## 第二款 幼稚園保姆

第三十二条 左記各号ノ一二該当スル者ハ無試験検定ニ依リ幼稚園保姆タルコトヲ認定ス

一、女子ニシテ本細則第二十七条第二十八条及第三十条ニ該当スル者  
二、高等小学校卒業生ノ女子ニシテ二箇年以上幼稚園ニ在リテ幼児ノ保育ニ従事シ其ノ成績佳良ナル者

## 附則

第三十三条 前各条ニ該当セスト雖検定委員会ニ於テ特ニ適當ト認めタル者ニハ相当免許状ヲ授与スルコトアルヘシ

第三十四条 本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十五条 大正九年二月二十四日公報小学校教員及幼稚園保姆ノ検定並免許状ニ関スル細則ハ之ヲ廃止ス

（第一号から第五号書式 省略）

出典 『栃木県報』第一二二九号（大正一三年一月二三日）（栃木

県立文書館所蔵)

【二〇】大正一五年小学校教員及幼稚園保姆検定並免許状二関スル細則中改正（一回目）

栃木県令第一号

大正十三年十二月栃木県令第八十三号小学校教員及幼稚園保姆検定並免許状二関スル細則中左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ施行ス

大正十五年一月十二日 栃木県知事 大塚惟精

第二十九条第四号第五号及第六号ヲ左ノ如ク改ム

四、尋常小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限五箇年、高等

小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限三箇年以上ノ実業

学校卒業者ニシテ在学中ノ成績佳良ナル者若ハ一箇年以上小学校

ノ専科教授ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リ成績佳良ナル者其ノ卒業シ

タル学科目ニ就テ

五、高等女学校ノ補習科若ハ実科又ハ実科高等女学校ヲ卒業シタル者

ニシテ在学中ノ成績佳良ナル者若ハ一箇年以上小学校ノ専科教授

ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リ成績佳良ナル者裁縫科ニ就テ

六、職業学校規程ニ依リ認可ヲ得タル学校ヲ卒業シタル者ニシテ在学

中ノ成績佳良ナル者若ハ一箇年以上小学校ノ専科教授ニ従事シ現

ニ其ノ職ニ在リテ成績佳良ナル者

出典 『栃木県報』第一三三三号（大正一五年一月一二日）（栃木県

立文書館所蔵）

【二一】大正一五年小学校教員及幼稚園保姆検定並免許状二関スル細則中改正（二回目）

栃木県令第一一八号

大正十三年十二月栃木県令第八十三号小学校教員及幼稚園保姆検定並免許状二関スル細則中左ノ通改正シ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十五年六月三十日 栃木県知事 大塚惟精

第十三条ノ二、高等女学校本科卒業及専門学校入学資格検定試験合格者

又ハ一般ノ専門学校入学ニ関シ無試験検定ヲ受クル資格ヲ有スル者ニ

シテ幼稚園保姆ノ試験検定ヲ出願スルトキハ左ノ科目ニ就テノミ試験

ヲ行フ

修身、教育、保育、図画、手工、音楽、体操

第十六条 第五号ノ次ニ左ノ一号ヲ加ヘ第二号「及保姆」ヲ削ル

六 幼稚園保姆

修身	二	教育(筆答)	教育(筆答)	保育(筆答)	二
算術	二	児童心理	三	歴史	二
地理	二	教授法	三	図画	二
手工	二	管理法	三	体操	一
裁縫	一	国語	二	音楽	一
筆答	一	講読	二	実地	不定
実地	不定	作文	二	筆答	一
実地	不定	習字	一	実地	不定
実地	不定	理科	二	実地	不定
実地	不定	音楽	一	実地	不定
実地	不定	音楽	一	実地	不定
実地	不定	音楽	一	実地	不定

第二十四条 実地授業及実地保育ハ各科目ノ得点四十点以上通約六十点以上ノ者ニ対シテ之ヲ行ヒ其ノ定点ヲ百点トス

第二十九条第四号乃至第六号中「若ハ一箇年以上小学校ノ専科教授ニ従事シ」ヲ「若ハ二箇年以上小学校ノ専科教授ニ従事シ」ト改ム

第三十二条 左記各号ノ一二該当スル者ハ無試験検定ニ依リ幼稚園保姆タルコトヲ認定ス

一、幼稚園令施行規則第十条第一号乃至第四号ニ該当スル者

二、小学校専科正教員ノ免許状取得後三箇年以上幼稚園ニ於テ幼児ノ保育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績佳良ナル者

三、小学校准教員又ハ尋常小学校准教員免許状取得後五箇年以上幼稚園ニ於テ幼児ノ保育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績佳良ナル者但シ小学校ノ教育ニ従事シタルコトアル者ハ二年ヲ限リ之ヲ右ノ年数中ニ算フルコトヲ得

四、高等小学校卒業程度以上ノ学力ヲ有シ継続して五箇年以上幼稚園ニ於テ幼児ノ保育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リテ保育ニ練達シ其ノ成績特ニ優秀ナル者

出典 『栃木県報』号外（大正一五年六月三〇日）（栃木県立文書館所蔵）

## 【一二】昭和三年小学校令実施規程一部改正（教員検定関係のみ）栃木県令第三十一号

大正三年三月栃木県令第十八号小学校令実施規程中左ノ通改正ス

昭和三年三月三十日 栃木県知事 別府総太郎

（省略 編者）

第五十二条第一項中「（ニ於テ）」ヲ削ル

第五十三条 左ニ掲クル試験科目ハ検定ヲ行ハス

一、小学校本科正教員ノ科目ニ在リテハ 商業、英語

二、小学校准教員ノ科目ニ在リテハ 農業、商業

三、尋常小学校准教員ノ科目ニ在リテハ 唱歌

（省略 編者）

出典 『栃木県報』第一二六号（昭和三年三月三〇日）（栃木県立文書館所蔵）

## 【二三】昭和四年小学校教員及幼稚園保姆検定並免許状ニ関スル細則中改正

栃木県令第三十七号

大正十三年十二月栃木県令第八十三号小学校教員及幼稚園保姆検定並免許状ニ関スル細則中左ノ通改正ス

昭和四年七月十二日 栃木県知事 盛岡二朗

第八条中第一号及第二号ヲ左ノ如ク改ム

一、小学校本科正教員ニ就テ教育法制経済音楽手工及農業

二、尋常小学校本科正教員及小学校准教員ニ就テハ教育及音楽

第九条中第一号ヲ左ノ如ク改メ第二号中「及保姆」ヲ削ル

一、小学校本科正教員ニ就テハ教育漢文法制経済及手工

第十条中第一号及第二号ヲ左ノ如ク改ム

一、小学校本科正教員ニ就テハ教育漢文数学歴史地理博物物理及化学

法制経済手工音楽

二、尋常小学校本科正教員及小学校准教員ニ就テハ教育算術歴史地理

理科及音楽

第十一条中第一号乃至第三号ヲ左ノ如ク改ム

一、小学校本科正教員ニ就テハ教育漢文歴史地理法制經濟習字図画手工及音楽

二、尋常小学校本科正教員及小学校准教員ニ就テハ教育歴史地理図画及音楽

三、尋常小学校准教員ニ就テハ教育

第十二条中第一号及第二号ヲ左ノ如ク改ム

一、小学校本科正教員ニ就テハ教育漢文歴史地理博物法制經濟習字音楽及農業

二、尋常小学校本科正教員及小学校准教員ニ就テハ教育及音楽尋常小学校准教員ニ就テハ教育

第十三条中第一号及第二号ヲ左ノ如ク改ム

一、小学校本科正教員ニ就テハ教育漢文博物物理及化学習字手工音楽及農業

二、尋常小学校本科正教員及小学校准教員ニ就テハ教育理科及音楽尋常小学校准教員ニ就テハ教育

第十三条ノ第三条乃至第十三条ノ學歷ヲ有セサル者小学校専科正教員ノ試験檢定ヲ出願スルトキハ当該学科及教育大意ノ外修身国語算術ニ就キ試験ヲ行フ

第十六条第一号乃至第三号及第五号中二左ノ科目ヲ加フ

一、小学校本科正教員

農業 二

二、小学校准教員

音楽（筆答 一）  
実地 不定  
手工（筆答 一）  
実地 不定

三、尋常小学校本科正教員

音楽（筆答 一）  
実地 不定

四、小学校専科正教員

修身 二 国語 二 算術 二  
第二十四条中二左ノ但書ヲ加フ

但シ二科目以内ノ受験者ニ限り各科目ノ得点六十点以上トス  
第二十七条左記各号ノ一二該当スル者ハ無試験檢定ニ依リ小学校本科正教員タルコトヲ認定ス

一、師範学校、中学校、高等女学校ノ教員免許状ヲ有シ其ノ経歴上小学校本科正教員ノ担任スヘキ学科ヲ教授スルニ足ル学力アリト認ムル者

二、高等学校高等科又ハ大学予科ヲ卒ヘタル者若クハ在学中小学校教員ニ適シタル教育ヲ修メタル高等女学校高等科卒業者ニシテ一箇年以上引続キ本県内小学校教育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績佳良ナル者

三、中学校又ハ高等女学校卒業者、公立私立学校認定ニ関スル規則ニ依リ認定セラレタル学校ノ卒業者専門学校入学者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者、及一般ノ専門学校入学ニ関シ無試験檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者ニシテ尋常小学校本科正教員免許状ヲ有シタル後二箇年以上引続キ本県内小学校教育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績佳良ナル者

四、尋常小学校本科正教員又ハ小学校准教員ノ免許状ヲ有シ五箇年以上引続キ本県内小学校教育ニ従事シ各科目ニ就キ左記時間数以上学力補修ノ履歴アル者ニシテ現ニ其ノ職ニ在リテ成績優秀ナル者

第二十九条 左記各号ノ一二該当スル場合ハ無試験検定ニ依リ小学校専

時間数	学科目
30	身修
100	育教
50	漢国
50	史歴
50	理地
70	算
30	代幾
30	博
70	化物
30	経法
30	画図
30	工手
30	楽音
50	操体
30	事家
30	業農

四、小学校准教員又ハ尋常小学校准教員免許状ヲ有シ五箇年以上引続キ本県内小学校教育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績優秀ナル者

三、中学校、高等女学校卒業者、公立私立学校認定ニ関スル規則ニ依リ認定セラレタル学校ノ卒業者専門学校入学者検定規程ニ依リ試験検定ニ合格シタル者及一般専門学校入学ニ関シ無試験検定ヲ受クル資格ヲ有スル者又ハ実科高等女学校（修業年限四箇年）卒業者ニシテ小学校准教員ノ免許状ヲ有シタル後二箇年以上引続キ本県内小学校教育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績優良ナル者

二、高等女学校本科卒業後修業年限一年以上ノ補習科ニ於テ小学校教員ニ適スル教育ヲ受ケ卒業シタル者ニシテ一箇年以上引続キ本県内小学校教育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績優良ナル者

第二十八条 左記各号ノ一二該当スル者ハ無試験検定ニ依リ尋常小学校本科正教員タルコトヲ認定ス

時間数	学科目
30	身修
100	育教
70	語国
100	術算
50	史歴
50	理地
100	科理
30	画図
30	楽音
30	操体

科正教員タルコトヲ認定ス

一、文部省直轄学校又ハ公立専門学校ニ於テ小学校令施行規則第一百条ノ学科目中一科目又ハ数科目ヲ履修シタル者其ノ履修科目ニ就テ

二、師範学校、中学校、高等女学校、実業学校教員免許状ヲ有スル者其ノ科目ニ就テ

三、日本体育会体操学校ノ本科又ハ別科ヲ卒業シタル者体操科ニ就テ

四、高等女学校ノ専攻科又ハ修業年限一年以上ノ補習科ヲ卒業シ在学中小学校教員ニ適スル教育ヲ修メタル者ニシテ在学中ノ成績優良ナル者裁縫科ニ就テ

五、公立私立学校認定ニ関スル規則ニ依リ認定セラレタル実業学校卒業者ニシテ一箇年以上引続キ本県内小学校教育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績優良ナル者其ノ卒業シタル学科目ニ就テ

六、実科高等女学校、高等女学校実科職業学校規程ニ依リ認可シタル学校、又ハ専門学校入学者検定規程ニ依リ指定セラレタル女子実業学校卒業者ニシテ卒業後二箇年以上引続キ本県内小学校ニ於テ専科ノ教授ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績優良ナル者裁縫科ニ就テ

七、高等小学校卒業者又ハ之ト同等以上ノ学力ヲ有スルモノニシテ五箇年以上引続キ本県内小学校ノ専科教授ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績優秀ナル者其ノ教授シタル学科目ニ就テ

八、高等小学校卒業者又ハ之ト同等以上ノ学力ヲ有スル者ニシテ音楽体操裁縫手工農業商業事図画外国語ノ一科目若ハ数科目ニ関シ師範学校本科第一部ノ学科程度ト同等以上ノ程度ニ於テ之ヲ教授スル学校ヲ卒業シ現ニ本県内小学校教育ニ二年以上従事シ其ノ成

績優秀ナル者其ノ卒業学科目ニ就テ

第三十条 左記各号ノ一二該当スル者ハ無試験検定ニ依リ小学校准教員タルコトヲ認定ス

一、中学校卒業者又ハ修業年限五箇年ノ高等女学校本科卒業者又ハ修業年限四箇年ノ高等女学校本科ヲ卒業シ修業年限一年以上ノ補習科ヲ修了セル者ニシテ一箇年以上引続キ本県内小学校教育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績佳良ナル者

二、高等女学校、公立私立学校認定ニ関スル規則ニ依リ認定セラレタル学校卒業者、専門学校入学者検定規程ニ依リ試験検定ニ合格シタル者及一般専門学校入学ニ関シ無試験検定ヲ受クル資格ヲ有スル者又ハ実科高等女学校（修業年限四箇年）卒業者ニシテ尋常小学校准教員ノ免許状ヲ有シタル後一箇年以上引続キ本県内小学校教育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績佳良ナル者

三、尋常小学校准教員免許状ヲ有シ五箇年以上本県内小学校教育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績佳良ナル者

第三十一条 左記各号ノ一二該当スル者ハ無試験検定ニ依リ尋常小学校准教員タルコトヲ認定ス

一、中学校及高等女学校卒業者、公立私立学校認定ニ関スル規則ニ依リ認定セラレタル学校ヲ卒業シタル者及一般専門学校入学ニ関シ無試験検定ヲ受クル資格ヲ有シ又ハ実科高等女学校（修業年限四箇年以上）卒業シタル者ニシテ六箇月以上引続キ本県内小学校教育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績佳良ナル者

二、尋常小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限三箇年以下ノ実業学校又ハ修業年限三箇年以下ノ実科高等女学校ヲ卒業シタル者ニシテ一箇年以上本県内小学校教育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リ

テ成績佳良ナル者

三、中学校、高等女学校三箇年修了者ニシテ三箇年以上小学校ノ教育ニ従事シ現ニ其ノ職ニ在リテ成績佳良ナル者

附則

第三十六条 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十七条 本令施行ノ全部ニ就キ佳良証明書ヲ有スル者ハ実地授業ニ就テノミ試験ヲ行フ

出典 『栃木県報』第二五五号（昭和四年七月一二日）（栃木県立文書館所蔵）

## 〔二四〕昭和七年小学校教員及幼稚園保姆検定並免許状ニ関スル細則中改正

栃木県令第三十七号

大正十三年十二月栃木県令第八十三号小学校教員及幼稚園保姆検定並免許状ニ関スル細則中左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年八月十九日 栃木県知事 半井清

第八条乃至第十二条、第十六条、第二十七条中「法制経済」ヲ「公民科」ニ改ム

附則

第三十八条 従前ノ規定ニ依リ法制経済科ノ成績佳良証明書ヲ有スル者ハ公民科ノ成績佳良証明書ヲ有スル者ト看做ス

出典 『栃木県報』第五六四号（昭和七年八月一九日）（栃木県立文書館所蔵）

【一五】昭和十五年小学校教員及幼稚園保姆検定並免許状二関スル細則中改正

栃木県令第四十号

大正十三年十二月栃木県令第八十三号小学校教員及幼稚園保姆検定並免許状二関スル細則中左ノ通改正ス

昭和十五年六月二十八日

栃木県知事 山縣三郎

第八条第一号中「公民科」ヲ削ル

第九条第一号中「公民科」ヲ削ル

第十条 実科高等女学校及高等女学校実科卒業者ニシテ試験検定ヲ出願スルトキハ左ノ科目ニ就テノミ試験ヲ行フ

一、小学校本科正教員ニ就テハ教育、国語漢文ノ内漢文、数学（修業年限三箇年以上ノ卒業者ハ除ク）、歴史（修業年限三箇年以上ノ卒業者ハ除ク）、地理（修業年限三箇年以上ノ卒業者ハ除ク）、博物（修業年限三箇年以上ノ卒業者ハ除ク）、物理及化学（修業年限三箇年以上ノ卒業者ハ除ク）、手工、音楽

二、尋常小学校本科正教員及小学校准教員ニ就テハ教育、歴史（修業年限三箇年以上ノ卒業者ハ除ク）地理（修業年限三箇年以上ノ卒業者ハ除ク）、理科（修業年限三箇年以上ノ卒業者ハ除ク）、音楽

楽

三、尋常小学校准教員ニ就テハ教育

第十一条 尋常小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限五箇年高等小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限三箇年ノ男子実業学校卒業者ニシテ試験検定ヲ出願スルトキハ左ノ科目ニ就テノミ試験ヲ行フ

一、小学校本科正教員ニ就テハ教育、国語漢文ノ内漢文、図画（工業学校卒業者ハ除ク）、音楽、手工（工業学校卒業者ハ除ク）、農業（農業学校卒業者ハ除ク）

二、尋常小学校本科正教員及小学校准教員ニ就テハ教育、図画（工業学校卒業者ハ除ク）、音楽

三、尋常小学校准教員ニ就テハ教育

四、小学校専科正教員ニ就テハ農業学校卒業者ニシテ農業又ハ工業学校卒業者ニシテ図画若ハ商業学校卒業者ニシテ商業ヲ出願スルトキハ教育ノ大意及教授法

第十二条 尋常小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限四箇年高等小学校卒業程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限二箇年ノ女子実業学校卒業者ニシテ試験検定ヲ出願スルトキハ左ノ科目ニ就テノミ試験ヲ行フ

一、小学校本科正教員ニ就テハ教育、国語漢文ノ内漢文、音楽、手工

二、尋常小学校本科正教員及小学校准教員ニ就テハ教育、音楽

三、尋常小学校准教員ニ就テハ教育

第十三条 削除

第十三条ノ三中「第八条乃至第十三条」ヲ「第八条乃至第十二条」ニ改ム

ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際従前ノ規定ニ依リ当該検定ノ試験科目ノ全部ニ付キ成績証明書ヲ授与セラレタル者ノ試験科目ハ仍従前ノ規定ニ依ル小学校本科正教員及尋常小学校本科正教員ノ検定ニシテ従前ノ規定ニ依リ教育ノ実地以外ノ試験科目ノ全部ニ付成績証明書ヲ授与セラレタル者亦同ジ

出典 『栃木県公報』第一三四三号（昭和十五年六月二八日）（栃木  
県立文書館所蔵）

平成二十八年九月三十日受理